

令和5年度 第2回 学校運営協議会(定時制部会) 議事録

校名	大阪府立大手前高等学校
准校長名	渋川 雅宏

開催日時	令和5年11月16日(木) 17:40~19:40
開催場所	大阪府立大手前高等学校 会議室
出席者(委員)	平野 智之、高木 学、平田 和也、寺村 美岐、上田 智子
出席者(学校)	渋川 雅宏、石野 靖
傍聴者	なし
協議資料	令和6年度 使用教科用図書の採択について 令和6年度 使用教科用図書採択一覧表 令和5年度 第1回授業アンケート集計結果 スクールミッション(設置者案)
備考	なし

議題等(次第順)

- 1 授業見学について
- 2 令和6年度 教科書採択について
- 3 第1回授業アンケート集計結果
- 4 現在の本校の様子・取組み等
- 5 スクールミッションについて
- 6 その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

1 授業見学について

(1) 委員からの意見等

- ・生徒一人一人の個性や発達段階を把握したうえで丁寧に対応をされており、それが授業アンケート結果に表れたのだろうと思う。
- ・本校(中学校)にも夜間学級があり、日本語指導を基盤とするクラスと中学校の教育課程を指導するクラスがある。特に日本語指導が必要な生徒が増えている傾向にある。高校への進学となれば、そこをクリアし、後期中等教育にむけての基礎的なことを定着させたうえで進路指導をしないといけないと考えている。
- ・授業を見学させていただいたが、すべてが生活に根差したものであった。数学はまるで物理の授業のようで、操作をしながら投影させることで、三角関数の理解がより深まったと思う。卒業後も記憶に残る(知識の定着を図る)楽しい内容・指導であった

と思う。

- ・生徒は質問しやすく、教員も細かく指導されていたと思う。生徒教員間の良好な関係もあり、良い学習環境だと思う。
- ・数学の授業ではプロジェクタが使用されており、見える化された形（縦に長くなる、横に長くなる、幅が広くなる、音に変えたらこうなるというように、目から見るだけでなく感覚的なものも取り入れたこと）により、より記憶に残るものとなったと思う。漢文についても、プロジェクタを使った授業で、瞬時に問題を提示するなど、考える時間が多くとれるよう工夫されたものであった。それぞれ良い授業だと思った。
- ・視覚化が図られた授業が行われていた（今日はたまたまだろうが、2つの教科ではプロジェクタを用いずに、親しみのあるプリント・言葉で指導していた場面もあった）。今後は、統一したもの、「今日の授業のねらいを必ず示しておこう」「一つの問いをみんな考えてみよう」という目標を掲げてみることや、生活に根差したものの「緑黄野菜の授業」であれば、年齢が高い生徒は、ビタミンが生活につながっていると思うので、そんな中での問いや視覚化の中で、少人数であれば、座席を円や口の字に組み替え、あるテーマで少し話し合ったあと、もとに戻すなどの工夫を試みるのもよいのではないか。どの生徒も熱心に取り組んでいるので、今の段階から、次の段階・目標（これまでどのように取り組まれ、これからどのように取り組んでいくのか）を拝見したいと思っている。
- ・生活に根差したもの（ビタミン）というところで、ビタミンについて興味を持てるような内容はないか、ICT活用につなげることができないかを考えながら今インターネットで調べてみると、季節により3倍の違いあるということだったので、例えばビタミンを指導する際に、「季節によってどれくらいビタミンの違いがあるか調べてみよう」というテーマで、ICT活用（デバイスで調べ学習をさせること）で興味・関心が高まり、学びが深まるのではないかと思ったのでお話をさせていただいた。
- ・そのあたりも含めて、学校の取り組みはどうか？

→授業の中で、ねらいやそのようなものをどこまで示すのかということについて、きっちりとしたものはないが、今日はどんな取り組みをするのか。手立て・見通しについて生徒に示していこうということを教員に伝えているところ。

次に、調べ学習的なところで、授業によるが、タブレットについて、社会科（地理）の中では、調べ学習をよくやっているのので、これからひろめていきたい。高齢の生徒の中には、使うことが苦手な人もいるので、チームでやっていけたらと思う。コミュニケーションをとることが苦手な生徒が多いので、一方通行の授業が多くなっている傾向にあり、本校の課題である。生徒はまじめに授業に取り組むので、教員は慢心することなく、興味・関心を引き出せる授業を工夫していく余地はまだあると考えている。

日本語の指導については、年々、課題としてとらえる定時制の学校が増えてきてお

り、日本語の指導について関心を持つ教員も増え、国語の教員でなくても日本語の指導の勉強や資格取得に取り組んでいる教員が増えている。そのような方向に向かっていていると思う。

・日本語指導の授業はないのか？

→国語の授業で分けて行っている（国語の免許と日本語の指導の資格を持っている教員が担当。国語の授業として単位認定が可能）。そのほか、0時間目や総合的な探究の時間の中でも日本語の指導を行っている。

・日本語指導の資格を取るにはお金がかかるが自主的に取りに行っているのか？

→費用の面はわからないが、資格取得のために勉強している教員がいる。

・日本語指導についての学習指導要領はないため、中学校では何をどのようにすれば伸ばすことができるのかがわからない。見よう見まねで試行錯誤しながら、自分たちで教員研修を行っている。

→本校では、日本語指導の担当者（非常勤講師）が優れているので、教員のお手本となっているところがある。

2 令和6年度 教科書採択について

「承認」

3 第1回授業アンケート集計結果及び分析結果の報告

(1) 本年度の上期は、すべての質問において過去最高値

(2) 「授業に対する生徒の取り組み姿勢」「生徒による授業評価」「授業に関する生徒の意識」のすべての分野で肯定率が96%以上。

(3) 評価平均・肯定率が上昇した理由

・小中学校で不登校だった生徒においては、学校に登校することで他者と繋がっていることへの安心感や自身の居場所が確保できたことで、自身のペースで学校へ安定的に登校できるようになったこと。

・高齢の生徒においては、諸事情により高校に通い、学ぶことができなかった環境等にあったが、学べることへの喜びを感じていること。

・外国にルーツを持つ生徒においては、入学前から「大学進学」という明確な目標を掲げていること。

・卒業予定生においては、社会に出ていくことや自立することをしっかりと意識し、行動できるようになっていること。

(4) 生徒一人ひとりが成長する、変容する背景として考えられること

・誰一人取り残すことのない「わかりやすい授業づくり」をめざした教員の様々な工夫や校内努力によるTTの実践、生徒が積極的に学ぼうとする仕掛けづくりに全教職員で取り組んでいること。

- ・外部資源の有効活用していること。
- ・様々な課題について教職員間で共有し、自身のこととしてとらえ、全教職員で向き合っていること。

(5) 委員からの意見等

- ・生徒のほとんどが4をつけているように思う。
→本校の教員は頑張っていると思うが、評価が甘いと思うところもある。
- ・アンケートの回答者は在籍生徒数と同数か？
→長期欠席生徒を除いた数である。
- ・手厚い支援、授業の場だけでなく、「そこにずっと居れる安心感」を周りで作っているということで、それは大きなことだと思う。
→授業に対する評価ということ以外に、学校に対する評価や自分の今の満足度も反映していると考えている。また、生徒に「学校は皆が安心して過ごせる場所」という意識を持ってもらっていると考えている。
- ・これまでの生徒の状況（今までの生活の状況等でなかなか学校に来れなかったり、来ていたけれども続けられなかったり等、どうしても揺れがあったりしていた部分）に学校が向き合ってきた成果がこの数年にあわれていると思う。
→今年度入学された生徒の中には事情によりやむなく退学し他国に行かれたが生徒がいた。在籍中は、日本語がほとんど理解できなかったにもかかわらず、日々、ここに笑顔で楽しそうに過ごしていたことが印象的である。ほんとうに楽しかったのだろうと思う。そのような思いがアンケートに反映されたのではないかと考えている。
- ・アンケートの実施時期は？
→第1回の実施は7月（1学期の終わりごろ）。第2回は12月の予定。
- ・7月に実施ということなので、きっと不登校の方は不安を持ちつつ、少し期待もありつつ、高齢の方、外国籍の方も含めてそうだと思うが、そのような気持ちで入学された中で、授業のいろんな仕掛けだけでなく、生徒を支えてこられた外部人材（SC、CC、SSW）や日本語を支援された方を含めいろんな方が、不安な生徒たちを入学から支えてこられた結果が数値やグラフに現れていると思う。すごいことだと思う。「みんなを支えているチーム学校」ということが分かったので、次のアンケートの時も維持できればと思う。
→第3回の学校運営協議会では、授業アンケート以外の部分、自己診断もお示しい。
- ・中学校（夜間学級）でもアンケートを取る。出席している生徒の意欲は高い。仕事を終わってしんどい体に鞭打って学校にこられる生徒にアンケートをとると、結果は高いものとなる。アンケートの母数が少なく、出席率の良くない方たちへのアンケートの取り方について丁寧にやっていかなければならないと考えている。これは中学校の

課題であるが、取り組んでいこうと改めて感じているところである。

→確かに学校に足が向かない生徒もいる。満足度の低い生徒の声をどのように拾っていくかが大事なことであると感じている。

- ・教室の後ろに貼っていたものの中に「この学校に来ることで自分が回復できた」というのがあった。ミステイク・ミスマッチでこれまでなかなか来られていない生徒や中学生へのメッセージ・師範となるように、6番目の「生徒が考えて主体的に発表・活動する」という項目のように仲間的に強みを出し合えるようなことを授業の中で、自分たちの今ある言葉で発進（授業でアウトプット）してくれることを次に期待したい。「学んだことを出すことでより学ぶ」ということができていると思うので、ぜひ総合的な探究の時間などで必ず1月に発表をすると決めておき、それに向けていろいろな授業評価を行うのはどうか。それは世の中にとって大事なことぐらいの重みがあると思う。その発信が、ぐるぐる回ってできないか。

一度つまづいたり、中学校でいろいろあったり、障害があったり、その生徒がとこの学校のあったかい支援の力でここまでになったということを言語化して発信できるようなものが後半に行事化されることを期待したい。

4 現在の本校の様子・取組み等

(1) 行事の紹介等に対する委員からの意見等

- ・修学旅行は中学校はコロナで行けなかったが、小学校以来の思い出の残る修学旅行に行けたので良かった。また、毎年文化祭を見せてもらっている。いろんな年代の人と先生も一緒となって取り組んでいた。とても面白く感心した。

→教員も楽しそうに取り組んでいたので良かったと思う。

- ・文化祭の劇などをととして教員との関係作りができてきたのだろう。

- ・文化祭の取り組み（白雪姫のような劇）は、いつごろから取り組まれたのか？

→夏休みに入る直前あたりからアイデアを出し合うなど準備をはじめていった。

- ・修学旅行先はどのように決めるのか？

→2年間は固定となるので、ふた学年（1年次、2年次）で決める。

- ・就職率や高いが定着率は低い（1年持たない）ということだが、精神障がい・発達障外のある人たちへの支援（これまでの取り組みが就労定着支援として厚労省で認められたこと）により、平均して3年くらいは続くと思っている。定時制は夜だから帰ってきやすいということがあるのだろうか。支援ということでは何かできることがないものか。自立訓練・生活訓練という枠組みで障がい者支援を行っているが、就職継続率がよい。学校ではそのあたりはいかがか？

→支援学校は療育手帳をもって就職し、うまくいかなかった場合に支援員が間に入ってサポートしたり、アフターフォローもやっている。高等学校ではそこまで手厚

くできない。また、定時制は3時間半の拘束だが、就職すると8時間となる。これを負担に感じているのだろうか（これはあくまでも推測である）。

他の定時制の高校でも1年・2年しか続かないと聞く。どこも課題は同じである。

- ・中学の時に慣れなくて、ここで回復して、そして就職。間にもう一つ階段が必要だろう。例えば、ソーシャルスキルのプログラムとか授業内容の中でやるのは難しいかもしれないが、それを3年でやってはどうか。ワンステップ階段を降りるのも1つかもしれない。

→在学のアルバイトの指導も、本校に限らずどこの定時制高校もやっているところ。

また、定時制には、定通教育振興会があり、企業から役員が出ているので、そことつながり、何かできないかを議論しているところである。

- ・バイトインターシップ（バイターン）というのが横浜にあった。
- ・中小企業家同友会と連携していいところに就職ができないかと思う。
- ・府立の全日制も同じ課題があると思う。

→アルバイトから始まって、それが正社員につながれば良いと思う。

本校に通学する生徒は、周辺から1時間くらいかけて学校に通っている人が多い。

地元の企業といっても、つながりのある企業がないというのも課題の1つとらえている。また、この辺の会社は大きな会社ばかりである。面倒を見てくれる会社（「面倒をみてあげる就職」ができる会社）がない。

5 スクールミッション（設置者案）について

- ・向こう10年間は、設置者案で行く→「承認」

次回の会議日程	
日時	令和6年2月19日（月）15:00～16:00（予定）
会場	大阪府立大手前高等学校 1階会議室